

2020年大河ドラマの主人公！

2019年2月吉日

明智光秀の娘・細川ガラシャ直系の子孫が実像に迫る！

『私の先祖 明智光秀』 2/28(木)発売

～歴史研究家・本郷和人氏との対談も収録～



「一族として、家族として、光秀の正義感を信じることにしています」(本書より)

「本能寺の変」は正義の闘い!? 末裔だからこそ書けた光秀の実像！

「本能寺の変」で織田信長を討った武将・明智光秀。本書は、光秀の三女（細川ガラシャ）の直系卑属である著者・細川珠生が、一族に継承される書物や口伝から、武人ながら和歌や茶道に通じ、愛妻家の家庭人とも言われつつも、出生・出自など謎多き光秀の実像に迫ります。

光秀を評するとき、“娘目線で見ると”という著者が、光秀の品格や考え方、「本能寺の変」の真相、血族としての共通点など、末裔だからこそ書ける内容を綴っています。また、東大教授で歴史研究家の本郷和人氏との対談も、和やかに両者の持論を展開させた、見どころ満載の1冊です。

『私の先祖 明智光秀』

定価：本体1480円＋税
発売日：2019年2月28日

(目次)

第1章：武将としての明智光秀 第2章：家庭人としての明智光秀
第3章：文化人としての明智光秀 第4章：特別対談 本郷和人×細川珠生

～本郷氏との対談の話題は、「本能寺の変」の真相からNHK大河ドラマまで！～



私は、光秀は少なくとも自分が天下人になるという野望はなかった気がします。
(中略)
自分で天下を長く治めようという気はなかったのではないのでしょうか。
もし、自分が取りたいと思ったら、光秀はもっとうまくやると思うんです。

僕が感心するのは、光秀が「信長を討つ」と重臣たちに明かしたとき、誰一人、離反する者が出ていないこと。(中略)
この点から考えると、家臣たちからも相当な信頼を得ていたのだと思います。
そういう意味でも、光秀は相当に優秀な人物だった。



著者取材
可能です！

対談協力：本郷和人（ほんごう・かずと）プロフィール

1960年、東京都生まれ。東京大学史料編纂所教授。東京大学・同大学院で石井進氏・五味文彦氏に師事し日本中世史を学ぶ。中世政治史、古文書学専攻。主な著書に『日本史のツボ』（文春新書）、『軍事の日本史』（朝日新書）、主な監修書に『東大教授がおしえるやばい日本史』（ダイヤモンド社）がある。

著者：細川珠生（ほそかわ・たまお）プロフィール

1968年、東京都生まれ。ジャーナリスト。熊本藩主・細川忠興の末裔。1991年、聖心女子大学文学部外国語外国文学科卒。同年より1年間、米ペパーダイン大学政治学部留学。父は政治評論家の故・細川隆一郎。キリスト教カトリック信者で洗礼名はガラシャ。日本舞踊岩井流師範の資格を持つ。